

特集

アロマセラピーを取り入れた看護実践

アロマセラピーは医療ではありませんが、用いる精油の芳香成分が嗅覚や皮膚に作用し、心身を癒やす効果があることは広く認められているところです。アロマセラピーを看護に取り入れる際の基本となる知識、すでに訪問看護や緩和ケアに取り入れ、効果をあげている実践者からの報告をお届けします。

アロマセラピーを行なう際の基本となる知識

—効用と禁忌、薬事法とのかかわり 百々雅子

看護師が行なうアロマセラピー 塚原ゆかり

訪問看護で行なうアロマ・マッサージ 吉田廣子

訪問看護での実践から—家族をもケアするアロマセラピー 中尾美千代

緩和ケア病棟でのアロマセラピー 石塚朝子

■特別記事

在宅で必要な口腔乾燥の知識とケア 柿木保明

認知症高齢者を地域で支える東京会議—キャンペーンを終えて 村田由佳

■連載

時間を忘れて 天方晴子／訪問看護時事刻々 石田昌宏／わたしのため・から始まる在宅介護 川口有美子／訪問看護のバイオニアたち「佐藤美穂子さん」宮田乃有／事例で考える医療福祉倫理 大林雅之ほか／わたしのことをわたしから 神野啓子／わが憧れの老い 服部祥子／在宅で療養するがん患者・家族のためのケアの手引き 福井小紀子／ほんとの出会い 岡田真紀／桜色のハーフコート 赤川次郎

編集
後記

●医療ニーズの高い在宅療養者と家族を支える手段として、療養通所介護が昨春制度化されました。今月号で特集した長時間滞在型訪問看護にも同様の期待が寄せられています。しかし執筆をお願いする過程では、「スタッフのやり繰りがつかず、現在は中止しています」との返答をくださった事業所もありました。伊藤論文に指摘されているように、人材の確保は課題の1つです。ニュース欄（157頁）の日本訪問看護振興財団の調査でも人材流出の現状が明らかになっていますが、前向きに訪問看護の魅力を伝えたいと思います。……………伊藤 M

●原稿をお願いしている立場を忘れて私見を綴ったり、自分の思いこみを指摘され訂正したりと、メールが行き交いながら雑誌ができていきます。「遠距離介護」の太田さんからは「無理して行かなくてもいい。行かない選択もあるんです」と、教えてもらいました。離れていてもコミュニケーションを密にすることで地域の介護体制は整いもすると。了解です。知恵を出し合って道を拓いていきましょう。……………伊藤 N

訪問看護と介護 第12巻 第2号 2007年2月15日発行(毎月1回15日発行)

〒113-8719 東京都文京区本郷5-24-3 Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2007, Printed in Japan

1部定価1,260円(本体1,200円+税5%) 年ぎめ予約購読料13,200円(年間12冊, 消費税, 送料弊社負担)

発行:株式会社 医学書院/代表者:金原 優/販売部:03-3817-5657/社内案内:03-3817-5600

「訪問看護と介護」編集室:直通03-3817-5787 FAX 03-5804-0485 担当:伊藤・伊藤・早田

Eメール houmon@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページURL http://www.igaku-shoin.co.jp

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本紙の無断複写は著作権法上での例外を除き禁止されています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。本誌掲載論文・記事のタイトル頁最下段に記された「0917-1355/05/¥250/論文JCLS」は、1論文1回複写につき250円要することを明示したものです。これは表示のない論文等にも適用されます。JCLSへのご連絡の際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。